

ドブガイ *Sinanodonta woodiana* (Lea)

【選定理由】

本種の属するイシガイ科貝類は河川の下流域や平野部の用水路などの流れが緩やかで底質が砂泥底で水質の良い場所を生息場所としている。県内ではこのような場所はほとんど破壊されてしまったため、1960年代には広い分布を持ち多産したイシガイ科貝類全体(愛知県科学教育センター,1967)の生息が危機的状況である。本種はイシガイ科貝類としては比較的水質の富栄養化した河川やため池などにも生息できるため、県内における生息場所は木村(1994)を含めて現在約30カ所確認されている。

本種には遺伝的に異なる2種が内包されている(田部・他,1994)。これを根拠に近年、その2種をヌマガイ、タガイとして区別することが多く(学名も今まである学名をあてがえている)、また殻形態でも判別式(関数)を使用して区別を行うとされているが、判別式の精度も個体群によっては著しく低く(近藤・他,2012)、殻形態による区別は容易ではない。正確な同定にはグロキディウム幼生もしくは生化学的な解析が必要である。そこで、本書ではそれらの検討が十分ではなく、かつ過去の記録(標本資料の検討も含めて)もどちらの種に当たるか確認できないので、2種を内包した形での従来通りの学名(属は変更した)及び和名を使用する(本来学名は*Sinanodonta* spp.とするべきではあるが、ドブガイの和名を優先した結果の表記である)。将来的に絶滅危惧に移行する危険性がある種と評価された。



安城市鹿乗川, 1990年1月22日, 木村昭一採集

【形態】

日本産イシガイ科貝類としては大型で、河川に生息する個体は殻長10 cm程度であるが、湖沼産の個体は大型になり殻長20 cmを越える個体も稀ではない。生息場所によって殻の大きさや形態も大きく変異する。よく本種はカラスガイ(標準和名としてではない一般的に黒い二枚貝に対する呼び名)と呼ばれることがあるが、本種には主歯も後側歯もなく、後側歯のあるカラスガイ *Cristaria plicata* (Leach) とは全くの別種である。

【分布の概要】

【県内の分布】

県内では河川下流域や平野部の小川や用水路の生息環境は壊滅的で、木村(1994)では8カ所で生息が確認された。河川下流域での生息場所は限られているが、豊田市、岡崎市等の平野部から丘陵地に点在するため池などに生息地点が見つかり、現在約20カ所で生息が確認されている。今後このようなため池を調査すればかなり多くの生息場所が発見される可能性はある。

【世界及び国内の分布】

シベリア、中国、朝鮮、インドシナに分布。国内では北海道から九州の河川下流域、湖沼に分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

上述したように河川の下流域や平野部の用水路などの流れが緩やかで底質が砂泥底で比較的水質の良い場所を生息場所とするほか、平野部のため池などに生息している。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述の通り生息地の破壊が深刻で、絶滅が危惧される。

【保全上の留意点】

水質の浄化、無秩序な護岸工事を避けることは当然であるが、イシガイ科貝類はグロキディウム幼生の時期にヨシノボリのような底生淡水魚類に寄生しなければ成長できない。従って、他の淡水生物を含めた生息環境の保全が不可欠である。

【特記事項】

レッドデータブックの評価には過去の標本を殻形態のみで同定して、過去から現在までの変化を検討することが不可欠である。タガイ、ヌマガイを2種として分割して、グロキディウム幼生や軟体部を検討せずに(古い時代の標本に幼生や軟体部が保存されている例はほとんど無い)、殻形態のみで評価することは不確実で、2種を分けて評価することには多くの問題がある。

【引用文献】

- 愛知県科学教育センター, 1967. 愛知の動物. 222pp.  
川瀬基弘・早瀬善正・市原 俊, 2011. 豊田市に生息する陸産貝類. 陸の水, 48: 9-16.  
近藤高貴・田部雅昭・福原修一, 2006. ドブガイに見られる遺伝的2型のグロキディウム幼生の形態. *Venus*, 65(3): 241-245.  
近藤高貴・田部雅昭・福原修一, 2011. ヌマガイとタガイの殻形態による判別. *ちりぼたん*, 41(2): 84-88.  
木村昭一, 1994. 東海地方の淡水貝類相. 研究叢報(第33報): 14-34. 全国高等学校水産教育研究会.  
木村昭一, 2014. ドブガイ, p. 329. in: レッドデータブックおかげさき 2014, 362pp. 岡崎市.  
田部雅昭・福原修一・長田芳和, 1994. 淡水産二枚貝ドブガイに見られる遺伝的II型. 日本貝類学会誌 *Venus*, 53(1): 29-35.  
(木村昭一)